「受け取ったおつり」

―修正稿―

2026/11/8

雨森　れに

〈人物表〉

猿谷（さるや）　泰斗（たいと）（２２）建設業。家賃滞納中

長里（ながさと）　京（きょう）（３８）丁寧な物言いの男。自称・私服刑事

高城（たかぎ）　心菜（ここな）（１０）誘拐された少女

長瀬（ながせ）　夏彦（なつひこ）（４０）逮捕された誘拐犯

店主

老婆

店員

1.

中華屋・店内（夜）

昔ながらの町中華。テレビでニュースが流れている。

作業着姿の猿谷泰斗（２２）が入ってくる。

カウンター席に座り、財布を取り出す。

ボロい折りたたみ財布に千円札が２枚。

壁のメニュー。「ラーメン７００円」「大盛無料」。

スマホに着信。画面は「大家」。

泰斗、無視する。

メッセージ通知。「家賃」「家賃」「追い出すからな」

と入ってくる。

泰斗、スマホを伏せる。

泰斗　「ラーメン。大盛りで」

店主　「はいよ！」

キャスターの声「続いては西東京市少女誘拐事件です。誘拐された高城心菜ちゃん１０歳の身代金として、３００万円が要求されました」

泰斗、テレビをちらり。

高城心菜（１０）の写真が公開されている。

ポニーテールで活発そうな雰囲気。

店主　「生きてればいいけどなぁ」

と、ラーメンを置く。

泰斗、ラーメンを受け取りながら、

泰斗　「３００万の価値ねぇ」

店主　「は？」

泰斗　「なんでもねぇっす」

と、ラーメンをする。

2.

中華屋・前（夜）

泰斗、つまようじをくわえて出てくる。

地面に黒革の長財布。使い込んであるが、分厚い。

泰斗、拾う。

中身を見て、つまようじが落ちる。

帯つきの札束が３つ。３００万。

周囲を確認。誰もいない。
財布を尻ポケットに突っ込む。
泰斗「早く届けなきゃなあ……」
と、誰かに聞かせるようなひとり言。
誰もいない路地へ歩き出す。

3.

路地裏（夜）

泰斗、暗闇に隠れて財布を開く。
札束を取り出すと、ポラロイド写真が落ちる。
乱れたポニーテールの少女。悲しそうな顔。
泰斗、見覚えがある顔に固まる。
札束に乾いた血がついている。
泰斗、鼻を近づけ、嗅ぐ。
泰斗「……ケチャップ」
自分に言い聞かせるように頷く。
泰斗「そう。ケチャップ。ケチャップ」
写真を財布に押し込む。

4.

街（昼）

翌日。スマホショップのカウンター。
泰斗、新しいスマホを受け取る。
店員「お支払いは……」
泰斗、一万円札を何枚も出す。
店員「あの、これ湿ってますけど」
泰斗「洗った」
店員「洗った？」
泰斗「……雨で」
× × ×
街角。ホームレスが寝ている。
泰斗、それを遠巻きに見て、長財布の入った尻ポケットを撫でる。撫で続ける。
通行人、怪訝そうに見る。

5.

中華屋・店内（夜）

泰斗、新品スマホをカウンターに置いて座る。

泰斗　「チャーシュー麺。ミニチャーハンセット。あと餃子」

店主　「今日は景気いいねぇ」

泰斗　「まぁ、ちょっと」

店のテレビがニュースを流している。

キャスター「西東京市少女誘拐殺人事件に続報です。誘拐された高城心菜ちゃんは、遺体で発見されました」

映る心菜の写真。昨夜のポラロイドと同じ顔。

泰斗の箸が止まる。

奥のテーブルで、長里京（３８）が泰斗を見ている。細身の黒スーツに眼鏡。頬に殴られた痣。

×　×　×

会計。泰斗、一万円札を出す。

店主「おつり、８千円と……」

と、千円札８枚渡す。

泰斗、おつりを受け取りながら、

泰斗「増えた気分になるね」

店主「千円札だからね」

泰斗、笑う。

6.

中華屋・前（夜）

泰斗、店を出る。

長里の声「少しよろしいですか」

振り返ると、長里が立っている。

長里　「昨日、この辺りで財布を拾われませんでしたか。黒の長財布です」

泰斗「拾ってないです」

長里「そうですか。では、尻ポケットの膨らみは」

泰斗、ポケットを押さえる。

泰斗「……ケチャップですよね」

長里「は？」

泰斗、走り出す。

7.

路地裏～駐車場（夜）

泰斗、狭い路地を走る。
何度も振り返る。長里はついてこない。
月極駐車場の前を過ぎ、戻って中へ。
砂利敷きでほぼ満車。
泰斗、ベンツとバンの隙間にしゃがみ込む。
荒い息。
砂利を踏む音。足音が近づく。
息を止める。
車の開錠音。
大きく息を吐き出す。

長里　「あぁ。ここにいたんですね」

ベンツの窓から、長里が見下ろす。

泰斗　「うわぁぁぁぁ」

長里　「落ち着いて。駐車場でかくれんぼは、無理がありますよ。ね？」

泰斗、逃げる。
長里、運転席に戻る。
ベンツ、ゆっくり発進。

8.

路地裏（夜）

泰斗、走る。
背後をベンツが徐行でついてくる。道幅ぎりぎり。
サイドミラーが壁をこする音。
長里、窓を開ける。

長里　「乗ります？」

泰斗　「乗りません！」

と、表通りに飛び出す。人通りが多い。
ベンツ、ここでは追わない。バックで去っていく。
泰斗、汗を拭い、呼吸を整える。
周囲を見渡す。コンビニや自販機はない。目の前には酒屋。

9.　**酒屋（夜）**

昔ながらの店。老婆がレジ横の小型テレビを叩いている。画面は砂嵐。

老婆、作業着姿の泰斗をしげしげと見て、

老婆　「アンタ、これ直せる？」

泰斗　「えぇ……俺、大工のほうっすよ」

老婆　「同じようなもんでしょ」

泰斗、渋々テレビ裏の配線を抜き差し。砂嵐ごしにキャスターの顔がちらつく。

キャスター「西東京市……」

泰斗の手が止まる。

心菜の写真がアップになる。

老婆　「この犯人、さっき捕まったってよ」

泰斗　「いつ？」

老婆　「速報だったから、さっきだろ」

泰斗　「そっか」

と、乾いた笑いを漏らす。

泰斗、コンセントを抜き差し。テレビが映る。すでに別のニュース。

老婆　「おぉ。ありがとねぇ」

泰斗　「なんもしてないし」

泰斗、冷蔵庫棚からペットボトルの水を取る。

レジに置き、財布を探る。

老婆　「いいよ。お礼に持ってって」

泰斗　「じゃあ、これに代えてもいいっすか」

泰斗、ハイボールのロング缶を持ってくる。

老婆、目を丸くする。

10.　**酒屋・前（夜）**

泰斗、缶を開ける。一気飲み。

ぷはぁ、と晴れやかな顔。

11.　**道路（夜）**

寂しい通り。

ほろ酔いの泰斗、歌っている。

泰斗「いーぬーのおまわりさーん。わんわんわわーん」

と、電信柱に体を預ける。

歩き出そうとして、男にぶつかる。

長里である。

泰斗、逃げようとするが、壁に押し付けられる。

長里「財布、返してもらえますか？」

泰斗「盗ってない！　これから交番に持ってくつもりでっ」

長里「それはちょうどいい」

長里、警察手帳を一瞬だけ見せ、すぐしまう。

長里「いわゆる私服刑事です」

泰斗「……今の、見せ方、速くないっすか」

長里「機密ですので」

泰斗「顔写真、ちゃんと見えなかったんすけど」

長里「写りが悪くて」

泰斗、長里の頬の痣を見る。

泰斗「その痣は？」

長里「犯人が反社側だったもので、喧嘩沙汰になりまして」

長里、内ポケットから手錠をちらつかせる。

長里「ところで、公務執行妨害ってご存知ですか」

泰斗、途端に腰が引ける。

泰斗「いやでも、中身が、その……」

長里「拾得物には、報労金という制度がありまして。拾った方は、一割から二割を受け取れるんです」

泰斗「……一割」

長里「今お渡ししましょう」

泰斗「え、いくら……」

長里「３００万の一割、３０万ですね」

泰斗、じっと長里を見る。

長里、にっこり。

泰斗、おずおずと長財布を差し出す。

が、長里が受け取る瞬間、引っ込める。

長里、笑顔のまま手を出す。

泰斗、観念して渡す。

長里、中身を数える。

長里「２８２万円。１８万円、足りませんね」

泰斗「すんません！　使いました！　スマホと飯と……」

長里、長財布から札を抜き、泰斗に渡す。

長里「一割の３０万から、使い込みの１８万円を引いて、１２万円のおつりです」

泰斗、札を握る。

長里「受け取っておいてください。それがお互いのためです」

長里、ベンツに乗り込む。窓が開く。

長里「あ、領収書は結構ですので」

ベンツ、去っていく。

泰斗「……刑事」

泰斗、１２万円を見つめる。

泰斗「そう。刑事。刑事」

と、お金を自分の折り畳み財布へ。

１２．泰斗の家（夜）

ボロアパートの一室。ちゃぶ台の上に家賃の督促状と財布。

湯上りの泰斗、新品スマホを充電しながらテレビをつける。

キャスター「西東京市誘拐殺人事件の続報です。犯人は二人組だと判明しました。本日午後九時頃に逮捕された長瀬容疑者とは別にもうひとりが逃走中です」

画面に長瀬夏彦（４０）の顔写真。

続いて、似顔絵。眼鏡。細身。長里である。

泰斗、財布を手に取る。

１２万円を取り出し、眺める。

そして、また財布へしまう。

おわり